

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士 (教育学)	氏名	庄 莉 莉
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目			
中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育に関する研究			
論文審査担当者			
主 査 教 授 鈴木 明子			
審査委員 教 授 村上 かおり			
審査委員 教 授 今川 真治			
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、中国における女子の第二次性徴期の下着装着の現状と課題を調査によって明らかにするとともに、日本の下着教育の展開方法に照らして、家庭、学校と社会教育の連携・協働の視点から、関連教育の改善に資する追究を行ったものである。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、女子の第二次性徴に関わる下着教育の必要性について、基本的・基礎的知識や技能の習得、第二次性徴期の発達の特徴及びブラジャーの役割、及び女性下着の普及過程及び女性の意識の変化を中心に論じた。</p> <p>第2章では、女子の第二次性徴に関わる下着教育における、家庭、学校及び社会教育の在り方について、それぞれの役割と連携・協働の意義、中国におけるそれらの教育の現状と課題から論じ、各教育の場における下着教育の課題を追究した。</p> <p>第3章では、日本における女子の第二次性徴に関わる下着装着と下着教育の現状について、企業の教育展開の実態、下着装着と下着教育に関する母娘の意識調査に基づく実態分析、さらに家庭、学校、社会教育の連携・協働の課題の三点から論じた。</p> <p>第4章では、中国における女子の第二次性徴に関わる下着装着と家庭教育の現状と課題について、下着装着と下着教育に関する母娘の意識、両者の実態の関係性を調査によって明らかにし、その結果に基づいて家庭教育の課題について探究した。下着装着の実態には課題が多く見られ、さらに母娘の知識・理解、実態・行動、関心・意欲には、相関関係がみられ、娘の下着教育において、母親は重要な役割を果たしていることを確認した。一方、母親の知識情報の欠如や娘とのコミュニケーション不足、また指導する内容や方法が適切でないことが課題として挙げられた。</p> <p>第5章では、中国における学校と社会の女子の第二次性徴に関わる下着教育の現状と課題について、まず、「中小学健康教育指導綱要」(2008)の概観と教師調査に基づいて、学校の下着教育の現状と課題を捉えた。また、企業の成長期向けのブラジャーの開発、販売実態と下着教育の現状を概観し、さらに関連の市販本の現状を調査した。指導綱要の学習内容として第二次性徴発達やブラジャー装着についての明確な記載があるものの、関連教科</p>			

の教師の半数はその内容について知らず、健康教育に関する意識が低いことが課題として捉えられた。また、中国の下着メーカーの成長期向けのブラジャーの開発や販売は歴史が浅く、第二次性徴に関わる下着装着についての発信はまだ途上であること、市販本では、多様な領域の関係者が思春期に関わる健康教育に注目してはいるが、乳房発達やブラジャー装着については重視されていないという実態を明らかにした。

第6章では、中国における女子の第二次性徴に関わる下着教育を展望し、改善の方向性、指導内容の検討、家庭、学校及び社会教育の協働・連携の必要性と方策について論じた。

本論文は、次の3点で評価できる。

1. 中国の女子の第二次性徴期の下着教育の必要性について、生理的・心理的発達課題の側面からの追究、健康教育の理念に基づく探究を行ったこと。

中国の歴史的・文化的背景や現在の教育政策の中で注視されている教育課程における展開も併せて、多面的にその要因を追究したことは、今後の中国の当該教育の展開、及び当該分野の研究に示唆を与えるものである。

2. 中国の女子の第二次性徴期のブラジャーの装着実態及びその学習実態と課題を関連文献及び調査に基づいて多面的に追究したこと。

その教育は家庭教育を中心に行われており、母親が重要な役割を果たしていること、母親自身に知識不足や健康教育への意識の低さがみられること、さらに母娘関係におけるコミュニケーションの不足などを要因として課題が多いことが明らかになった。学校教育においても、理念的には重視されているものの、教師の意識や実践レベルにおいては課題がみられること等を明らかにした。これらの知見は、今後の教育政策や家庭及び学校教育における課題解決のための対応に具体的な指針を与えるものである。

3. 日本の下着教育の展開方法に照らして、中国の女子の第二次性徴に関わる下着教育における家庭、学校及び社会教育の連携・協働の意義について追究したこと。

母親の当該教育に対する意識を高め、親としての責任を自覚する機会をつくり、教師の健康教育に対する認識を深め、意識の転換を促し、第二次性徴の成長期の女子の悩みに真摯に対応する下着メーカーの社会的責任を問う等、生活教育研究者の立場で、その改善に資する追究、提案を多面的に行ったことは、今後の本研究領域の進展に寄与するものである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和6年2月8日